

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		てくてく教室（児童発達支援）		公表日		令和 8年 1月 23日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		2つの場所に分けたり、パーティションで落ちつける環境を作り工夫している。	保育室に利用者数が7名以上となると、狭くて難しい環境かと思う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	他のクラス担任が臨機応変に対応して、活動の際に補助に入っている。	0歳児から2歳児の利用人数も増え、職員の配置数も増やす必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		身体的に配慮が必要な子どもの利用がある場合は、段差やトイレ等、バリアフリー化への見直しの必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動に不必要な物は、視覚に入らないように布等で見えないような環境作りをしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーティション等を使用し、こども達がクールダウンできる環境を作り、安心・集中できる環境作りを工夫している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保育後に職員同士で振り返りをして、意見を出し合ったり、個人記録の確認を補助職員もしたりして、共通理解を図ることができている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		運営評価委員による外部評価を実施し、助言を頂いたことを職員間で検討・改善につなげていくように努めている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修会等、積極的に参加し資質向上に励んでいる。事業所内でも事例検討研修や出張報告会を実施し、他職員へ周知している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		相談支援専門員と連携を取りながら、支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全職員で個別支援計画を確認し、支援方法などの共通理解を図る。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画をもとにして、活動内容を計画・実践し、目標が達成できるように工夫している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○				

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		職員間で保育の打ち合わせをし、様々な想定を行って、どんな状況でも対応できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		保育終了後に、職員間で保育の振り返りを行うことで、気づかない点も他職員の目線で知ることができる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援の改善につながるように、個人記録を補助職員にも確認してもらい、実際に行った支援でうまくいった事例を全職員で共通理解を図る。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			関係機関との連携は図れているが、主治医や協力医療機関等の支援体制はなかなか難しいのが現状なので、今後の課題として検討していきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		訪問見学や連絡会等で情報共有や相互理解を図っている。担任が送迎に加わることで、事業所での様子や支援が必要など、成長した面を直接伝えている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校の特別支援コーディネーターと連携を図り、連絡会で情報共有し、特別支援学級等の見学・説明会を実施した。	引き続き、子どもへの支援だけでなく、保護者への支援として、事業所が相談しやすい環境作りに努めていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援センターとの連携を図る機会が少ないが、研修会や交流会に参加し、情報交換ができるようにしている。	研修会だけの連携ではなく、随時、連携が取れるように努めていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		保育園への交流保育を入園前に0～2歳児クラスが実施し、幼稚園との交流を年長児クラスが実施した。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳等を通して、その日の活動の様子はなるべく伝えるようにし、共通理解を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		研修会で頂いた資料等、保護者へ共有できるものは配布して情報提供している。	ペアレント・トレーニング等、なかなか時間が持たない現状もあるが、今後の課題として取り組めるようにしていきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		懇談会で困り感だったり、成長のポイントを共有できるようにしている。親子通園が難しい保護者には、動画を見せたり連絡帳等を通して伝えたりして、子育ての悩み等に対する助言を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		きょうだい同士での交流する機会は、実施することができていないのが現状である。今後の課題として、実施できるようにしていきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		一人で判断せずに、保護者の方にも了承を経て管理者へ報告し、職員間で情報共有して対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、てくてく便りや活動予定表を配布し、保護者の方へ周知している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		聴覚障害のあるお子さんへの対応として、手話・ジェスチャー・表情など統一して対応している。必要に応じて、伝えられることは手話を覚えて対応できるように配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		保護者以外の地域住民を招待する等の事業運営を図れていないので、今後の課題として検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		避難訓練以外でも、日常会話の中で緊急時の対応の仕方について話し合っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			非常災害の発生に備え、避難訓練は実施しているが、業務継続計画は策定していない為、今後の課題として取り組めるようにしていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止をするための研修会参加後に、職員間で資料を基に情報共有し、共通理解を図ることができた。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。				該当なし	